令和３年度自己評価計画

石川県立鶴来高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1　生徒指導の方針・基準に一貫性を持ち、毅然とした指導で、基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図る。	①　挨拶を含めた所作の指導を、ＳＴ・授業・休み時間をはじめ、年間5回程度の「遅刻ゼロ・鶴高挨拶運動」で指導する。	生徒指導課 特活課 各学年	挨拶ができると自覚している生徒の割合は90.1％となっており、前年度同期と比較して5.7％増加した。 今年度は、特活課と連携して積極的に挨拶運動を行い、来校者・教職員、地域の方、友人間でも明るく元気な声で挨拶ができるようにしていく必要がある。	【成果指標】 来校者・教職員、地域の方、友人・クラスメートに明るく元気な声で挨拶・お辞儀等ができる。	学校に関係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A　90％以上 B　85％以上90％未満 C　80％以上85％未満 D　80％未満	Ｄの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）
	②　望ましい服装容儀や規範意識の向上に対して全教職員が授業や学校生活全般、年間5回程度の「遅刻ゼロ・鶴高挨拶運動」で積極的に指導にあたる。	生徒指導課 全教職員	規範意識に欠け、服装の乱れがある生徒が少数存在する。それに対して約96％の教職員は積極的に指導を行っている。	【努力指標】 積極的に生徒への声かけを教員が協力して行っている。	服装容儀等について積極的に声かけをしている教職員が、 A　95％以上 B　90％以上95％未満 C　85％以上90％未満 D　85％未満	Ｄの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （教職員アンケート）
	③　規則正しい生活習慣と時間を守らせることを指導することで、遅刻の減少に努める。特に朝の始業５分前に着席するよう強く指導する。	生徒指導課 教務課 教育相談課 各学年	昨年度同期と比較して学校・授業間遅刻ともに増加し、全体で25.4％増加した。（学校：Ｒ1：485→527、授業間：Ｒ1：191→321） 今年度も、「遅刻ゼロ運動」を継続するとともに、学年・生徒指導・家庭が連携し、遅刻回数や家庭状況を踏まえた段階的な指導を行う等、実態に即した粘り強い指導を行い、遅刻数を減少させる。	【成果指標】 規則正しい生活習慣が身につくことで、１年あたりの遅刻人数が20％以上減少している。	1年あたりの遅刻人数が、 A　20％以上減少した。 B　15％以上減少した。 C　15％未満の減少であった。 D　減少しなかった。	Ｄの場合、指導の方法を再検討する。	月ごとの集計記録を整理して、前年度の年間総合計に基づいて評価する。
	④　「生徒チェック用紙」を活用し、全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。	生徒指導課 教育相談課 全教職員	いじめにつながるネットトラブルやいじめの未然防止の取り組みを推進するとともに、いじめ問題対策委員会を定期的に開催し、生徒の情報を共有することで、早期発見に努めている。いじめの兆候がある場合には、速やかに対処している。	【満足度指標】 「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が高い。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が、 A　95％以上 B　90％以上95％未満 C　85％以上90％未満 D　85％未満	Ｄの場合、指導の方法を再検討する。	年間７回調査する。 （生徒アンケート）
	⑤　学校の環境美化に積極的に努め、校舎内外の環境美化も取り組むよう指導する。	保健厚生課 特活課 全教職員	昨年度のアンケート結果では、本校の教室は整理整頓、清掃されている項目において1年間で3.8ポイント増の84.5％となった。しかし、教室以外の場所の環境美化意識はそこまで高くなっていない。そこで、今年度は校舎内外の環境美化にも努めるため、他の分掌とタイアップして取り組みを行っていく。	【成果指標】 校舎内外の環境美化にも積極的取り組む。	校舎内外の環境美化にも取り組んでいる生徒の割合が、 A　85％以上 B　80％以上85％未満 C　75％以上80％未満 D　75％未満	Ｄの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2　生徒が安心して学べる授業づくり（授業のユニバーサルデザイン化）を推進するとともに、家庭学習時間の確保や読書量の増加を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	①　様々な背景や問題を抱えた生徒を理解するために年5回の面談週間を設け、学年や教育相談委員会で得た情報を、学校外からも助言を得ながら、教科会でも共有し、適切に支援できる能力の向上を目指す。	教務課 各教科 教育相談課	昨年度のアンケートでは7月より12月のほうが取り組み状況が良くなっている。適切な学習指導ができるように、早い段階から担任や学年団、教育相談、部活動顧問、教科間で情報交換・共通理解をすることが必要である。	【努力指標】 教職員は個々の生徒理解に努めた上で、学習指導を行う。	担任や学年団・教育相談などと生徒情報を相互に共有して、 個々や集団に応じた適切な学習指導を行っている教職員の割合が、 A　95%以上 B　90%以上95%未満 C　85%以上90%未満 D　85%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （教職員アンケート）
	②　話し合い活動を中心とした生徒が主体的に参加するための授業力の向上を図る。学校全体でテーマを決め、定期的な「ちょっと見週間」を活用し、相互に授業参観をする。各教科で主体的・対話的で深い学びの計画・実践・改善を行う。	教務課 各教科	本校生徒は、授業に対して受け身である生徒が多く、理解したことを深く学び、活用する力は弱い。授業でもグループ活動や話し合い活動を通して、理解を深め、積極的に取り組む姿勢を身に着ける必要がある。	【満足度指標】 習熟度別や選択授業が、生徒の学習活動に対して効果的に実施されている。	発表や話し合い活動など積極的に授業に参加したと答えた生徒の割合が、 A　80%以上 B　75%以上80%未満 C　70%以上75%未満 D　70%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）
	③　個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自尊感情を育み、希望進路の実現を果たせるよう努力させる。	進路指導課 ３年学年会 各教科	今年度は１２名の国公立大学志望者がいる。全員に合格圏内の力をつけさせたい。そのうえで５名以上の合格者を出すことがが目標である。そのためには進路指導課と学年・教科が指導についてより緊密に連携し、個々の生徒の特性と学力の把握を行う。 また、就職に関しては、求人件数の減少が予想されるため、新規求人の開拓に努めるとともに保護者や外部組織との連携を図り、就職希望者全員の就職内定を目指す。	【成果指標】 国公立大学に現役で5名以上合格している。	年度末の進学状況において、国公立大学合格者が、 A　5名以上 B　4名 C　3名 D　2名以下	Dの場合、目標設定の検討、指導方法等を検討する。	最終進学状況の調査で評価する。
				【成果指標】 就職希望者が3月末までに100%内定している。	3月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A　100% B　95%以上100%未満 C　90%以上95%未満 D　90%未満	Dの場合、目標設定の検討、指導方法等を検討する。	3月就職状況の調査で評価する。
	④　各種検定・資格取得を推進するとともに、より上級資格取得に向け挑戦する意識付けと対策講座等、指導体制の充実を図る。	進路指導課 国語科 外国語科 情報科 商業科	昨年度の合格率は全体で47.9%となった。各検定別では、 漢字検定2級16.7%(1/6)・準2級20.5%(8/39)・3級21.4%(40/187)、英語検定2級57.1%(4/7)、準2級28.6%(10/35)・3級65.9%(27/41)、簿記実務検定3級40.0%(2/5)、情報処理検定1級33.3%(1/3)、2級18.8%(3/16)・3級58.6%(34/58)、電卓実務検定1級65.0%(13/20)・2級94.4%(17/18)・3級78.8%(41/52)、ビジネス文書検定1級60.0%(9/15)・2級60.0%(15/25)・3級85.1%(63/74)という結果であった。	【成果指標】 各種検定資格の取得率が増加している。	学年及び各教科が目標とする各種検定資格に対する取得率が A　60%以上 B　50%以上60%未満 C　40%以上50%未満 D　40%未満 ※合格者数／受験者数	Dの場合、結果を分析し、学習意欲喚起の方策、指導体制等、改善策を検討する。	各種検定の合格状況を調査する。
	⑤　家庭学習調査を行い、その状況を分析し、課題の出し方を適切に工夫したり、担任が面談したりすることで家庭学習の習慣を身につけさせることにつなげる。	進路指導課 教務課 各学年	家庭学習の必要性を自覚し、取り組むことができる生徒は約半数であり、未だ定着しているとは言い難い。一人一人の特性に応じた課題等を与え、生徒が学ぶ喜びを感じつつ取り組む姿勢を身に付けさせなければならない。週間課題や個別課題等を与え学習習慣の確立を目指す。	【成果指標】 担任・教科担当・部顧問と連携し、文武両道を実践させる。	家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A　60%以上 B　50%以上60%未満 C　40%以上50%未満 D　40%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）
	⑥　学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。朝学習で読書を取り入れ、本に触れる機会として図書館での貸し出しを促す。	教務課（図書担当）	昨年度貸出数は1,460冊と約30%の大幅な増加となった。た。ポップ講座など図書委員会の取り組みをしているが貸出数には結びついていない。国語科との連携により読書指導の充実を図り、豊かな言語文化に触れさせるとともに、読書の楽しさを知り、読書量の増加を図る必要がある。	【成果指標】 教科のみならず、朝読書や委員会活動等を通して、本に触れる機会を増やし、読書量の増加を促していく。	図書室での年間貸出冊数が、 A　1,500冊以上 B　1,300冊以上1,500冊未満 C　1,100冊以上1,300冊未満 D　1,100冊未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	年度末に集計する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3　教育活動の速やかな情報発信と地域社会と連携したボランティア活動の推進で、地域や保護者から信頼される開かれた学校づくりに努める。	①　中学生やその保護者に本校の教育活動をより理解してもらえるよう、志望者に対して部活動状況を発信する等、ホームページのタイムリーな情報の発信と内容の充実を図る。	総務課	ホームページの年間更新回数は昨年度比5.5%増の444回で、アクセス数では93.4%増の170,803件で、過去最高値となった。月別のアクセス数では11,000件(8月)～18,791件(3月)で、月平均件数は14,233件となった。 タイムリーな更新はもとより、再訪問者を増やすために、アクセス数が多い5・6・10・11月を重点期間と定め更新回数を増やしていくとともに、学校生活の雰囲気がより分かるよう画像や動画を多く用いたり年間を通じて生徒たちのコメントを増やしたりすることで、より訴追力のある情報発信としていく必要がある。	【成果指標】 閲覧者が本校のホームページに月平均14,000件以上アクセスしている。	ホームページの月別アクセス数が14,000件を上回る月が A　10ヶ月以上 B　8ヶ月以上10ヶ月未満 C　6ヶ月以上8ヶ月未満 D　6ヶ月未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	毎月のホームページのアクセス数を把握するとともに、7月、12月に集計する。
	②　生徒・教職員・保護者が一体となり、手取川歩行や花いっぱい運動、エリアクリーン活動等を通して、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組み、地域とのつながりを深めていく。	特活課 総務課	昨年度、中学校・地域とのつながりを強める活動ができたと感じた教職員は56.7%であった。活動に参加している生徒や教職員に偏りがあるため、すべての教職員及び生徒が参加できるよう実施方法や内容について検討する必要がある。 本校の様々な活動を広く深く理解してもらうためにも、生徒・教職員・保護者が一体となって活動していく必要がある。	【努力指標】 生徒・教職員・保護者が積極的に小中学校や地域と連携する活動に参加している。	地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組むことができたと思う生徒・教職員・保護者の割合が、 A　75%以上 B　65%以上75%未満 C　55%以上65%未満 D　55%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (生徒・教職員・保護者アンケート)
4　教職員自ら、これまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。	①　各教職員が自らの勤務時間や業務内容を的確に把握するとともに、毎月の業務の流れの中で先を見通し、区切りを意識した計画的・効率的な遂行に努める。	教頭 全教職員	超過勤務の縮減に取り組んだと思う教職員の割合は83.9%、80時間以上の超過の割合は全体の3.6%で、確実に減少傾向にある。80時間以上超過勤務ゼロを目指す上で、年度や学期始めの多忙や、大会に向かう時期等課題は多いが、さらに先を見通した計画的・効率的な業務の遂行が求められる。	【努力指標】 教職員一人ひとりが自らの勤務時間を把握し、業務内容を精査して計画的・効率的に取り組み、超過勤務時間の削減を図る。	毎月2回設定されている定時退校日を意識し、実行することができた割合が、 A　80%以上 B　70%以上80%未満 C　60%以上70%未満 D　60%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (教職員アンケート)
	②　部活動において、顧問と生徒が部ミーティングを通して共通の目標を持ち、活動計画の中で技能向上を目指して効率的・効果的な活動に取り組む。	教頭 全教職員	昨年度、部活動時間は大幅に短縮されたが、各部がミーティング等を通して目標設定を明確にしたことにより、顧問・生徒ともに納得のいく取り組みができた。最低限週1回のミーティングを持ち、目標や計画、活動方針等についての共通理解を図り、さらに効率的・効果的な活動を目指していく。	【努力指標】 部活動において、教職員と生徒がミーティングを通して共通理解を図り、効果的・効率的な活動に取り組んでいる。	目的意識を持ち、効率的・効果的な活動に取り組んでいる教職員、生徒の割合が、 A　80%以上 B　70%以上80%未満 C　60%以上70%未満 D　60%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (教職員及び生徒アンケート)